

# ティーチングポートフォリオ

健康科学大学看護学部看護学科

看護学部長 教授 望月宗一郎

2023年8月28日提出

## 1 教育の責任

看護職の質の向上は喫緊の課題である。看護基礎教育において、入学した学生の学習意欲が維持できるよう、学生の特性に合わせて合理的配慮をしながら、様々な工夫を凝らして教育・指導に携わっていく。画一的な教育ではなく、本学看護学部のオリジナリティを見極めていく。看護師を志して入学した学生のニーズに応えられるような力を養っていくべきと考えている。

## 2 教育の理念と抱負

看護は人間同士の関係性の中で展開される「実践の科学」であり、他分野の学問に比べ、実践面での有用性が重視され発展してきた。私は今日に至るまで、行政保健師として現場で培った8年間を土台に、一貫して地域看護学、特に公衆衛生看護学を研究し、その教育経験を積んできた。多様化する住民のニーズを的確に捉え行政施策にいかに関与していくかという地域保健活動の大きな課題は、今もなお追及の余地があり、今後も実践現場の保健師との連携を密にしながら専門技術職としての保健師活動の在り方を探求していきたいと考える。地域で生活する住民一人ひとりのQOLの向上を推進するため、これに関わる保健師の力量形成を支援し、結果的に住民へ還元できるよう取り組んでいきたい。

また、地域看護学における演習と実習の連動、他関係科目との連携を強化し、時代の要請に対応できる看護職の教育内容を体系化していきたい。大学院時代、「行政保健師の現任教育の実態」について研究すればするほど、看護基礎教育の重要性に気付かされた。看護職には人間として良識ある基本的資質に加えて、専門職者としての実践的知識と技術、限りなき向上意欲が不可欠である。看護基礎教育では、現場で求められる看護実践能力の土台をしっかりと作り上げるために、客観的・科学的な視点を養っていく必要がある。生活体験の乏しい現代の学生の気質や特性を知れば知るほど、看護の基本ともいえる豊かな人間性を磨く大切さが理解できる。自己実現を支援し、看護学の奥深さや素晴らしさを学生自身が実感できるよう心掛けたい。そのためには、実践知と理論との統合が大切であると考え、私自身、自己研鑽が必要であると認識している。行政によるサービス提供の実際や保健師の他職種との連携の重要性を意識的に伝え、学生が看護専門職として物ごとを多角的に捉え実践につなげられる能力が育まれるような講義を心掛けている。教育に携わる際に特に気を付けている点は、看護学部の先生方をはじめ、教育者の先輩方のご指導を常に仰ぎ、いただいた助言は真摯に受け止め、自分1人の価値観のみに左右されないことである。実習や演習では、学生が主体的に学修でき実践力を身に付けられるよう複数の教員で関わる場合も目的をしっかりと共有し合い、学生にとってより学びの深い内容になるよう、常に改善を繰り返していくことが大切であると考えている。

以上のように、教育、研究、社会貢献を三位一体とし、大学教員として果たすべき役割を再認識し、山梨県の看護専門職育成にこれからも専念していきたい。今までの経験の中で形成してきた実践的知識と大学院での学びを糧に、不完全な自分の経験のみで論じることのないよう、関連研究をしっかりと検討することを怠らず、自己研鑽を続けていきたい。また、県下の保健師が学習を深める中核機関としての大学機能を高めていく必要がある。私自身、常に地域に開かれた大学の役割に寄与したいと考える。

### 3 現在担当している科目

公衆衛生看護活動展開論  
保健医療福祉行政論Ⅰ  
保健医療福祉行政論Ⅱ  
保健医療福祉行政論Ⅲ  
公衆衛生看護学実習Ⅰ  
公衆衛生看護学実習Ⅱ  
保健統計学Ⅱ  
看護研究Ⅰ

### 4 教育の方法

講義の中では、公衆衛生関連領域を、社会を繋ぐ接点の学問としてとらえ、一般的な常識として知っておいて欲しいことを含め、国家試験出題基準を念頭に基礎的な知識、技術を理解できるようにしている。

講義時間内に学修効果が上げられる工夫をしている。また、日ごろからの学修習慣をつけるための工夫や、知識・技術を定着させるための工夫を心がけている。その他、講義への出席と課題提出も含めて総合評価することにしており、単に定期試験の成績だけでなく、講義への取り組み姿勢も重視している。

#### 1) アクティブラーニングの強化

公衆衛生看護活動展開論において、アクティブラーニングを積極的に取り入れ実施している。例えば、地域診断を進める際の地区踏査に出かける前に、どんな視点で地域を観察するかをグループで考えさせ、地域における健康課題を学生自らが導き出せるよう工夫している。学生は、地域関連図を完成させ、健康課題から具体的方策を導き出せる力をつけることができている。課題解決型のアクティブラーニングにより、公衆衛生看護学を学ぶための志向性を喚起できている。

#### 2) ロールプレイの導入

公衆衛生看護支援論において、ロールプレイの手法を用いた実践的な演習を行った。新生児訪問の場面を想定し、学生が①保健師、②新生児を出産した母親、③観察者となり、出産後の初回訪問指導を行っている。また、特定保健指導の初回面接場面において、①保健師、②指導対象者、③観察者に分かれ、住民の目線に立った保健師活動の実際を体験した。講義で学んだ知識を実践的な観点から理解させることができている。

#### 3) リアクションペーパーの活用

保健医療福祉行政論Ⅰ及びⅡにおいて、学生の各回の講義内容の理解度について確認することを目的に、各回の授業終了後に学生に質問・感想用紙を配布し記載させ、回収後には全ての学生に対しコメントを付して次回の授業時に返却している。その際の主な質問内容については、学生全員に向けて説明を行い、再確認を行っている。このことにより、学生は学習内容についてより理解を深めることができ、また、授業内容の改善につながるという効果ももたらされている。

#### 4) 出席状況等を含めた総合評価の実施

定期試験で点数だけで合否を判定するのではなく、全人的教育の視点から、講義への出席状況と課題の提出状況について、講義への参加姿勢を定期試験の結果と合わせて総合評価している。

### 5 教育を改善するための努力

保健医療福祉行政論をはじめとする公衆衛生関連領域の科目は、看護師を目指す学生にとってあまり関係がないものと錯覚されがちである。学生が関心を持ちやすいよう、臨床現場で遭遇する事項に関連付けて話題提供する工夫をしている。また、法律の改正や新たな統計情報の公表、ガイドライン等の改訂、最近あった公衆衛生関連のトピックスを積極的に紹介し、学生が最新の知識と状況を把握できるようにしている。

### 6 教育の成果・評価

大学教員として学生教育に携わるようになり17年目となる。公衆衛生関連領域の科目の学生からの評価は悪くないが、これに甘んじず自己研鑽を行っていく。

### 7 今後の目標

#### 1) 短期目標

- ・国家試験合格率、および模試における私の担当領域の正答率などを常に分析し、より分かりやすい授業を心がける。
- ・毎年の学生からの評価が改善するよう、学生の評価や講義の中での気づきを踏まえ、教授法の改善を目指す。

#### 2) 長期目標

- ・看護師・保健師として就職した卒業生からのフィードバックから、本学看護学部のあり方と自分の担当科目の教授方法の質を高めていく。
- ・看護専門科目の学修や実習時に公衆衛生関連領域が関係づけられるように、公衆衛生関連領域の教授法にさらに工夫を加えていく。

以 上